

もっともっと女性に安心を

キアゲン HPV Test

子宮頸がんについて
知っておきたいこと



www.theHPVtest.com



子宮頸がんは予防できる病気です

子宮頸がんは世界で2番目に多い女性特有のがんで、日本では年間15,000人の女性が子宮頸がん（上皮内がん含む）にかかり、毎日約10人の女性が死亡しています。最近では20代、30代の若い女性の間で増えています。

子宮頸がんはヒトパピローマウイルス（HPV）感染が原因であることや、どのようにがんに進行するかが明らかになっています。

定期的に子宮頸がん検診を受けることによって、原因であるウイルス感染やがんになる前の状態を発見できれば、ほぼ完全に予防することができます。



HPV とは何ですか？

ヒトパピローマウイルス（HPV）は皮膚や粘膜に感染するありふれたウイルスで、皮膚と皮膚の接触で感染します。HPVのいくつかの型はいぼを発症させ、また別の型は、子宮頸がんに行進する可能性のある前がん病変（異形成）を引き起こす場合があります。

HPVに感染しても、ほとんどの女性にとっては問題ありません。細胞が異常に変化する前に、ウイルスは体内の免疫機能によって体外に排除され、消えてしまうからです。ただ、ごくたまに、感染が持続することがあります。男性も HPV に感染しますし、他の人にウイルスを感染させます。しかし、男性が HPV 感染によってがんを発症することは非常にまれです。

HPV と子宮頸がんの関係は？

HPV には 150 種類以上の型があり、そのうち約 30 種類は、性器の接触（主に性交渉）によって感染します。その中の約 13 種類の高リスク型 HPV は、子宮頸がんを引き起こす可能性があります。女性が高リスク型 HPV に感染して、ウイルスを体外に排除できず、ウイルス感染が持続した場合、子宮頸部の細胞が異常に変化します。その状態が長く続くと子宮頸がんに行進する場合があります。

HPV はどのように感染するのですか？

HPV は性交渉など、皮膚と皮膚の接触で感染します。HPV はありふれたウイルスで、女性の 80% は、一生に一度は HPV 感染しています。HPV 感染しても、多くの場合は、ウイルスは体外に排除されます。しかし、病変を引き起こさないまま潜伏し続ける場合もあります。また、数ヶ月、時には数年間子宮頸部に持続感染することもあり、その場合、ウイルスによって細胞が異常に変化し、前がん病変を引き起こします。



HPV 感染はどうすればわかりますか？

多くの場合、高リスク型 HPV に感染しても症状は見られません。HPV に感染しているかどうかは、HPV 検査を受ければわかります。

HPV 検査は、高リスク型 HPV のうちの 13 種類に感染しているかどうかを調べることができます。細胞診との併用検査の場合は、一回の細胞採取で細胞診と HPV 検査の結果が得られます。

子宮頸がんを予防するには、どのような検査を受ければよいでしょうか？

細胞診は子宮頸がん検診の基本です

子宮頸部から採取した細胞に異常な変化がないか、細胞検査士が顕微鏡で調べ、異常があれば専門医が診断します。細胞に異常が認められた場合には、細胞診を再度受診するか、あるいは精密検査（コルポ診）を勧められる場合があります。

異常な細胞を早い段階で発見できれば、細胞ががんに変化する前に治療することができます。しかし、細胞診は子宮頸がんの原因を直接検査するわけではないので、必ずしも確実な判定ができるとは限りません。

細胞診では、採取した検体に十分な数の細胞が含まれていなかったり、異常な細胞が子宮頸部の粘液や炎症細胞に隠れてしまい、見えにくくなることもあります。あるいは、細胞検査士が顕微鏡で検査するときに、異常な細胞を見逃すこともあります。このため、細胞診の結果が正常でも、病変が存在する場合があります。



キアゲン社の HPV 検査は HPV 検査試薬の世界標準です

HPV 検査も子宮頸部から採取した細胞を調べるので、細胞診で採取した細胞を使って同時に HPV 検査を行なうこともできます。この検査は、遺伝子検査技術を使って、子宮頸がんの原因となる高リスク型 HPV 感染を高い精度で検出することができます。そのため、細胞診と HPV 検査の併用検査は、世界中で行なわれた多くの臨床研究で幅広く評価されています。細胞診と HPV 検査の併用によって、将来、子宮頸がんにかかるリスクや精密検査の必要性の有無を判断することができます。



どんな人が HPV 検査を受けるべきですか？

30 歳以上の女性には、子宮頸がんの定期検診を行ない、細胞診と HPV 検査を併用することをお勧めします。30 歳以上の女性が HPV 感染している場合には、子宮頸がんを引き起こす原因となる持続感染が多く見られます。30 歳未満の女性の HPV 感染はよくあることで、1～2 年でウイルスは体内から排除されるため、定期的な HPV 検査は必要ありません。

ただし、年齢に関わらず、細胞診で ASC-US（明確に判定できないボーダーライン）と判定されたときには、精密検査（コルポ診）が必要かどうかを判断するために、HPV 検査が勧められています。HPV 検査と細胞診を併用した定期検診によって、子宮頸がんをほぼ完全に予防することができます。

ワクチンで子宮頸がんを予防できますか？

ワクチンだけでは、子宮頸がんの予防は不十分です。HPV ワクチンは 16 型と 18 型の高リスク型 HPV 感染を予防することができます。特に、性交渉を開始する前の女性に対して特に高い効果があります。しかし、16 型と 18 型以外の多くの高リスク型の HPV 感染を予防することはできません。そのため、ワクチンを接種したとしても、定期的に子宮頸がん検診を受けることが大切です。子宮頸がんのリスクが高まる 30 歳以上の女性は、HPV 検査と細胞診の併用によって、早い段階で異常な細胞を発見し、確実に子宮頸がんを予防する大きな安心を得ることができます。

詳細は弊社ウェブサイト www.theHPVtest.com をご覧ください。

Trademarks: QIAGEN® (QIAGEN Group).

本文に記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

2301786 10/2010 © 2010 QIAGEN, all rights reserved.

www.qiagen.co.jp

株式会社 キアゲン

〒104-0054 ■ 東京都中央区勝どき 3-13-1 ■ Forefront Tower II

Tel:03-6890-7300 ■ E-mail:techservice-jp@qiagen.com



www.theHPVtest.com